

2017年度 研究センター事業報告書

研究所名	地域健康社会学研究センター
研究所長名	早川 岳人

I. 研究成果の概要

本欄には、研究センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、項目立てなどをおこなってできるだけわかりやすく記述してください。

1. 地域健康社会学プロジェクト研究の推進

寄付研究プロジェクト（2016年4月発足）発足時の主旨を引き継ぎ、2017年4月に研究センターとして改めて発足させたことで、より発展的な成果がみられた。住民の参加・協働による地域健康創出を目指す基礎的研究、歴史・実践研究、現状分析・方法開発の総合的な研究を行うとともに、疫学的手法を用いて健康創出の社会的課題を明らかにしてきた。具体的には、次の諸課題に分けて研究を行った。

- ① 京都における地域健康の歴史と実践
- ② 福島の経験にもとづく地域健康づくりの現代的課題の追究
- ③ 地域健康社会学の創出と総合人間学の基礎的研究

復興過程を地域健康創出の視点から把握し、参加・協働の先進的地域医療の経験と重ねることによって得られる学術的知見により、安全・安心の健康、予防的健康、住民主体の健康創出にとって意義のある研究を積極的に推進した。

また、滋賀医科大学、福島県立医科大学、福島県、福島市、郡山市、KBS 京都、京都府保健福祉部などとの連携を強化し、研究ネットワーク形成など研究に関わる堅固な研究基盤を構築した。

2. 外部資金獲得の推進

センターの運営資金として寄附金を保有するほか、個別の研究課題推進のため、複数の科研費・厚生労働行政推進調査事業費等を獲得している。また、センター長の早川が滋賀医科大学との共同研究を行い、疫学、公衆衛生学の観点から地域医療の可能性を模索するとともに、産学官連携や外部資金の獲得を見据えた研究を行った。科研費をはじめとした外部資金の申請・獲得を積極的に推進することで、研究活動をより幅広く展開することを可能とした。

3. メディア媒体を使用した発信及び社会貢献

研究所ウェブサイト、ソーシャルメディアにおける積極的な発信を行うとともに、各メディアの特性を生かした独自の情報発信についても工夫や分析を行い、より効果的な情報発信に努めた。また、2016年7月より取り組んでいる地元（京都）ラジオ局の番組を通して、小学生目線で見た地域の高齢者への作文を発信することにより、地域社会への貢献と研究素材の抽出を相互に行った。これらの報道や成果発信を通して、地域社会への直接的効果はもとより、間接的に他の地域社会への貢献も可能とした。

4. 若手研究者の育成

当センターを通して研究領域を拡大しようとする若手研究者を積極的に参画させ、構成員の有する豊富な人的ネットワークを活用することで、若手研究者の研究ネットワーク拡大に寄与した。また、疫学研究を行う上で使用頻度の高い統計学や解析ソフトのスキルを若手研究者にマスターさせ、多様なリサーチ業務への活用に繋げるなど、若手研究者へのキャリアパスを意識した育成を行った。また、若手研究者が独創的な研究を積極的に行っていくために、研究者同士が研鑽できる研究会を開催した。

II. 拠点構成員の一覧

本欄には、2018年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員研究員等の構成員を全て記載してください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③学振特別研究員(PD・RPD)、④博士後期課程院生・一貫制博士課程3回生以上に在籍する院生

役割	氏名	所属	職位	
研究所長・センター長	早川 岳人	衣笠総合研究機構	教授	
運営委員	中村 正	産業社会学部	教授	
	松田 亮三	産業社会学部	教授	
	サトウタツヤ	総合心理学部	教授	
学内教員 (専任教員、研究系教員等)	中妻 拓也	総合心理学部	助手	
	開沼 博	衣笠総合研究機構	准教授	
	山口 洋典	共通教育推進機構	教授	
学内の若手研究者	① 専門研究員・研究員	川本 静香	R-GIRO	専門研究員
	② リサーチアシスタント			
	③ 大学院生			
	④ 日本学術振興会特別研究員(PD・RPD)			
その他の学内者 (補助研究員、非常勤講師、研究生、研修生等)				
客員協力研究員	高山一夫	衣笠総合研究機構	客員研究員	
その他の学外者				
研究所・センター構成員 計9名 (うち学内の若手研究者 計1名)				

III. 研究業績

本欄には、「II. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2018年3月31日時点)

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	中村 正	犯罪被害者と刑事司法(シリーズ刑事司法を考える第4巻)	分担執筆	2017年9月	岩波書店	指宿信他編	254-275
2	サトウタツヤ	Imagination in Adults and the Aging Person: Possible Futures and Actual Past. In Tania Zittoun and Vlad Glaveanu (Eds.) Handbook of Imagination and Culture. Chapter 9.	共著	2017年6月	Oxford University Press	Tania Zittoun and Tatsuya Sato	187-207
3	サトウタツヤ	TEMでひろがる社会実装—ライフの充実を支援する	共編著	2017年8月	誠信書房	安田裕子・サトウタツヤ	254

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	早川岳人	なぜ、「見える化」が必要なのか 地域診断におけるデータ分析の重要性	単著	2017年3月	保健師ジャーナル(73巻3号)	早川岳人	198-201	
2	中村 正	子どもを虐待する父親のグループワーク	単著	2017年10月	精神療法(43巻5号)	中村正	71-75	
3	サトウタツヤ	ローレッタ・ベンダー 心理学史の中の女性たち第3回	単著	2017年4月	心理学ワールド(77号)	サトウタツヤ	29	
4	サトウタツヤ	マミー・クラーク 心理学史の中の女性たち第4回	単著	2017年7月	心理学ワールド(78号)	サトウタツヤ	29	
5	サトウタツヤ	TEA(複線径路・等至性アプローチ)から見たキャリアの捉え方	共著	2017年9月	対人援助学マガジン(30号)	サトウタツヤ・川本静香	105-111	
6	サトウタツヤ	リタ・ホリングワース 心理学史の中の女性たち第5回	単著	2017年10月	心理学ワールド(79号)	サトウタツヤ	29	
7	サトウタツヤ	メアリー・エインスワース 心理学史の中の女性たち第6回	単著	2018年1月	心理学ワールド(80号)	サトウタツヤ	29	
8	山口 洋典	PBLの風と土：(1)学びの環境をリフォームするという挑戦	単著	2017年6月	対人援助学マガジン(8巻1号)	山口洋典	248-253	
9	山口 洋典	PBLの風と土：(2)プロジェクトの機能より問題の存在が鍵	単著	2017年9月	対人援助学マガジン(8巻2号)	山口洋典	277-282	
10	山口 洋典	PBLの風と土：(3)専門性を高める学びと専門家への学び方	単著	2017年12月	対人援助学マガジン(8巻3号)	山口洋典	262-267	
11	山口 洋典	Discussion on Methodology to Go Up and Down Learning Stepladder Properly: From a Comparative Study of Supervision in PBL and Relationship Building in Service Learning	共著	2018年2月	Conference Proceedings of PBL2018 International Conference: PBL for Next Generation(10巻25号)	Hironori Yamaguchi, Mogens Jensen, Casper Feilberg	1-12	

12	山口 洋典	書評 TEM でひろがる 社会実装 ーライフ の充実を支援する 安田裕子・サトウタ ツヤ編著 精誠書房 (2017年)	単著	2018年2月	ボランティア学研究(18巻)	山口洋典	141-144	
13	山口 洋典	PBLの風と土：(4)基 本は急がば回れの学 びでも時に近道を	単著	2018年3月	対人援助学マガジン(8巻4 号)	山口洋典	242-247	
14	山口 洋典	サービス・ラーニン グにおける「メモ の書き方ガイド」 の導入ージャーナ ルの厚い記述につ なぐためにー	共著	2018年3月	立命館高等教育研究(18巻)	山口洋典・秋吉 恵・宮下聖史・木 村充・河井亨	147-161	
15	松田 亮三	医療のアクセス障壁 ー実態分析への接近 と状況把握について	単著	2017年6月	いのちとくらし研究所報(59 号)	松田亮三	1-9	
16	松田 亮三	日韓医療保険におけ る保険料賦課の課題	単著	2017年11 月	社会政策(9巻2号)	松田亮三	40-41	
17	松田 亮三	日韓における保険料 賦課をめぐる政策課 題の共通性と差異ー 二か国の事例からの 問い	単著	2017年11 月	社会政策(9巻2号)	松田亮三	68-72	
18	松田 亮三	刑務所の公衆衛生ー 被収容者の健康課題 把握と戦略形成ー	単著	2018年3月	矯正講座(37号)	松田亮三	239-262	
19	松田 亮三	医療福祉政策研究ー 多様な課題とアプロ ーチを受け入れて	単著	2018年3月	医療福祉政策研究(1巻1号)	松田亮三	1-6	

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	早川岳人	データの「見方」は保健師 の「味方」 データを活用 した保健活動の展開	2017年4月	日本看護協会報告書	早川岳人
2	中村 正	JAPANESE STYLE OF THERAPEUTIC JURISPRUDENCE II:HOW CAN WE PUT THE NEW WINE INTO THE OLD BOTTLE?: Some Significant Points of Considering Japanese Experience of Therapeutic	2017年7月	International Academy of Law and Mental Health, XXXVth International Congress on Law and Mental Health	中村 正

		Jurisprudence for Developing Theory and Practice in Diversity			
3	中村 正	アディクションからの回復支援のネットワークの可能性—司法と福祉、理論と実践は、分かりあえるのか？	2017年9月	第2回犯罪学合同大会・公開シンポジウム	中村 正
4	サトウタツヤ	How business philosophy affects creative activities: The Inamori management case.	2017年7月	15th European Congress of Psychology (ECP)	Yamura, K., Kono, T., & Sato, T.
5	サトウタツヤ	The lay theory of medical therapy and psychotherapy for treatment of depression in Japanese university students	2017年7月	15th European Congress of Psychology (ECP)	Kawamoto, S & Sato, T.
6	サトウタツヤ	New perspective for cultural psychology: Object, Body and Self	2017年8月	The 17th Biennial Conference of The International Society of Theoretical Psychology	Tatsuya Sato
7	サトウタツヤ	進学校教師の職業アイデンティティをめぐる語り—所属組織における葛藤と役割の模索—	2017年9月	日本パーソナリティ心理学会第26回大会	神崎真実・黄 信者・土元哲平・中田友貴・川本静香・菅井育子・隅本雅友・サトウタツヤ
8	サトウタツヤ	許容できない事象に対する共感の構造—ロジャーズの共感理論からみた「死にたい」に対する共感の困難さ—	2017年9月	日本パーソナリティ心理学会第26回大会	川本静香・中妻拓也・サトウタツヤ
9	サトウタツヤ	許容できない事象に対する共感の構造—コフト理論からみた「死にたい」に対する考察	2017年9月	日本質的心理学会第14回大会	中妻拓也・川本静香・サトウタツヤ
10	サトウタツヤ	不登校者の身体表現と教師による呼応—不登校経験者受け入れ校におけるフィールドワーク	2017年9月	日本質的心理学会第14回大会	神崎真実・サトウタツヤ
11	サトウタツヤ	当事者と倫理と研究者：医療分野における質的研究の貢献	2017年9月	日本質的心理学会第14回大会	サトウタツヤ
12	サトウタツヤ	「TEM 図の描き合い」による「転機」経験の反省的考察	2017年9月	日本質的心理学会第14回大会	土元哲平・サトウタツヤ
13	サトウタツヤ	「TEM で広がる社会実装」の可能性	2017年9月	日本質的心理学会第14回大会	サトウタツヤ
14	サトウタツヤ	チュートリアル TEA (複	2017年9月	日本心理学会第81回大会	サトウタツヤ

	ヤ	線径路等至性アプローチ)			
15	サトウタツヤ	病名と症例からみるアルコール依存症に対するイメージ	2017年9月	日本心理学会第81回大会	川本静香・中田友貴・生内瑠子・サトウタツヤ
16	サトウタツヤ	心理学における共感研究の復興ーアメリカにおける心理学, 文化人類学との関連ー	2017年9月	日本心理学会第81回大会	中妻拓也・サトウタツヤ
17	サトウタツヤ	ナラティブの意義と可能性	2018年3月	第4回言語文化教育研究学会	サトウタツヤ
18	サトウタツヤ	「TEA (複線径路等至性アプローチ) の理論と実際」 (講義及び事例発表とコメント)	2018年3月	沖縄心理学会	サトウタツヤ
19	サトウタツヤ	健康生成論と「一貫性の感覚」の重要性 被災地の復興の人生径路を考えてみる	2018年3月	日本発達心理学会第29回大会	サトウタツヤ
20	サトウタツヤ	TEMが拓く保育者の子ども理解と専門家としての育ち合いー「協働型」園内研修をデザインする	2018年3月	日本発達心理学会第29回大会	サトウタツヤ
21	山口 洋典	Communication-design for disaster risks through shopping at a large-scale shopping center: transition from disaster prevention to disaster mitigation	2017年8月	8th Conference of the International Society for Integrated Disaster Risk Management	山口洋典・堀江尚子
22	山口 洋典	Transcend Counter-productivity in Japanese students' Reflection through Description Workshop: How to Cultivate the Habit of Articulated Learning	2017年9月	International Association for Research on Service-Learning & Community Engagement (IARSLCE) 2017 Conference	Hironori Yamaguchi, Mitsuru Kimura, Toru Kawai
23	山口 洋典	共感不可能性を前提とした被災地間支援の方法論の実践的研究: 熊本と新潟を事例に	2017年9月	日本心理学会第81回大会	山口洋典・関嘉寛
24	山口 洋典	Discussion on Methodology to Go Up and Down Learning Stepladder Properly: From a Comparative Study of Supervision in PBL and	2018年2月	PBL2018 International Conference	Hironori Yamaguchi, Mogens Jensen, Casper Feilberg

		Relationship Building in Service Learning			
25	山口 洋典	集合知の観点から見たコミュニティのレジリエンス創出のための視点～支援の当事者が主体となるコミュニケーションデザインの実践事例から～	2018年3月	国際ボランティア学会第18回大会	宗田勝也・山口洋典
26	松田 亮三	Hierarchy, market or network? Analysing governance of the Japanese mixed health care delivery	2017年6月	The 3rd International Conference on Public Policy (ICPP3)	Ryozo Matsuda
27	松田 亮三	Welfare State and Dying: A Case Study of Japan	2017年8月	The 14th East Asian Social Policy Research Network Annual Conference	Ryozo Matsuda
28	松田 亮三	Epidemiological Knowledge for local health policy making: Insights from the new public health system in England	2017年8月	The 21st World Congress of Epidemiology	Ryozo Matsuda
29	松田 亮三	諸外国の公衆衛生政策における健康格差指標	2017年11月	第76回日本公衆衛生学会	松田亮三
30	松田 亮三	医療福祉政策研究への多様なアプローチ	2017年12月	日本医療福祉政策学会第1回研究大会	松田亮三
31	松田 亮三	健康格差縮小に向けた公衆衛生活動-保健師への期待-	2018年1月	第6回日本公衆衛生看護学会学術集会	松田亮三

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	地域健康社会学研究センター設立記念市民公開講座	朱雀キャンパス大講義室	2017年7月	250名	
2	土曜講座「地域の健康課題をまもる～地域健康社会学～」	末川会館	2018年3月	200名	

5. その他研究活動（報道発表や講演会等）				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	早川岳人	滋賀県	滋賀県国民健康保険医療保険課 保健事業部会	2017年4月～
2	早川岳人	平成29年度福島市介護予防普及啓発事業講演会	福島市介護予防事業	2017年8月
3	早川岳人	那須塩原在宅医療連携	那須塩原郡医師会	2017年9月
4	早川岳人	平成29年度矢祭町介護予防事業講演会	福島県矢祭町介護予防事業	2017年9月
5	早川岳人	滋賀県	滋賀県データ活用事業プロジェクト（滋賀県衛生科学センター・健康寿命課）	2017年10月～

6	早川岳人	介護予防事業講演会	愛知県健康福祉部	2017年11月
70	早川岳人	招聘教育講演「地域健康社会学からみえてくること」	対人援助学会第9回大会	2017年11月
11	早川岳人	保健師活動見える化に関する研修会	神奈川県厚木小田原保健福祉事務所	2017年11月
12	早川岳人	平成29年度北塩原村介護予防事業講演会	福島県北塩原村介護予防事業	2017年12月
13	早川岳人	データを活かした地域づくり講演	大阪市保健師管理職会	2017年12月
14	早川岳人	地域づくり講演会	京都洛西竹の里地域活動団体、洛西社会福祉協議会	2017年12月
15	早川岳人	健康寿命延伸のための地域医療フォーラム	地域社会振興財団、自治医科大学、福井県おおい町	2018年2月
16	早川岳人	データを活かした地域づくり講演	京都市中京区役所	2018年2月
17	早川岳人	データを活かした地域づくり講演	京都市下京区役所	2018年2月
18	早川岳人	枚方市市民公開講座	大阪府枚方市	2018年3月
19	中村 正	メディアアピランス『クローズアップ現代—どう止める妻への暴力』(25分、NHK報道局製作)	NHkテレビ	2001年1月30日～
20	中村 正	インタビュー／男らしさと暴力	教育	2001年11月～
21	中村 正	学術シンポジウム「これからの子ども虐待防止論—修復的モデルの探求—」／牧真吉、二宮直樹、団士郎、中村正(企画)	立命館大学人間科学研究所・学術フロンティア推進事業プロジェクト研究シリーズ3「子ども虐待研究最前線」 http://www.ritsumeihuman.com/hsp/project/archive/series/no3/sympo.pdf	2002年12月～
22	中村 正	対談／上川あや・山路明人・中村正「対峙する『こころ』と『からだ』—性同一性障害の当事者に聴く—」	立命館大学人間科学研究所・学術フロンティア推進事業プロジェクト研究シリーズ4「当事者のまなざし」 http://www.ritsumeihuman.com/hsp/project/archive/series/no4/kamikawa.pdf	2003年3月～
23	中村 正	対談／村石雅也・小林博和・小林貴裕・村本邦子・団士郎・中村正(企画)「家族を結びなおす—家族	立命館大学人間科学研究所・学術フロンティア推進事業プロジェクト研究シリーズ4「当事者のまなざし」	2003年3月～

		に傷ついた人々の回復の物語」		
24	中村 正	座談会／中村正・野口裕二・石川文洋「臨床社会学の可能性」	アディクションと家族 第20巻第4号 日本嗜癮行動学会 397-411頁	2004年～
25	中村 正	対談／中村正・沼崎一郎「脱暴力の統治—DV問題をめぐる国家／社会／男性性の権力作用」	情況	2005年6月～
26	中村 正	座談会／中村正、宮地尚子、中釜洋子、田村毅「ジェンダーと家族療法」	家族療法研究(第24巻第2号、104-128頁)	2007年9月～
27	中村 正	座談会／中村正、信田さよ子、村尾泰弘、廣井亮一「加害者臨床—憎しみの環を断つために」	現代のエスプリ 至文堂 (No.491,pp.10-38)	2008年5月～
28	中村 正	書評、イー・リー、ジョン・シーボルト、エイドリアナ・ウーケン著／玉真慎子・住谷祐子訳『DV加害者が変わる—解決志向グループセラピー—実践マニュアル』	精神療法 (第39巻第2号)	2013年4月～
29	中村 正	ドメスティック・バイオレンス加害者対応	家族療法テキストブック	2013年6月～
30	サトウタツヤ	東日本大震災と心理学：人生径路の問題	立命館大学梅田キャンパス	2017年1月18日～
31	サトウタツヤ	日本心理学会 高校生のための心理学講座	大阪大学	2017年12月17日 ～2017年12月17日
32	サトウタツヤ	第2回 双葉郡住民実態調査 調査報告書	うつくしまふくしま未来支援センター	2018年1月31日～
33	サトウタツヤ	個人、家族、地域における「一貫性の感覚」の重要性 健康生成論をベースに被災地の復興の人生径路を考えてみる	立命館大学 (土曜講座)	2018年3月3日 ～2018年3月3日
34	サトウタツヤ	書流言か 文化創造か? 万歳三唱令を	熊本日日新聞 文化面	2018年3月10日～

		考える		
--	--	-----	--	--

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
該当無し					

7. 科学研究費助成事業						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	早川岳人	医療情報の高度利用による健康寿命予測推定モデルの構築と健康寿命の推計に関する研究	基盤研究(C)	2015年4月	2019年3月	代表
2	早川岳人	地域住民における詳細な認知機能検査結果と十年間の認知症、要介護リスクとの関連解析	基盤研究(C)	2016年4月	2019年3月	分担
3	中村 正	親密な関係における暴力加害者の特徴と暴力から離脱する過程の臨床社会学的研究	科研費 基盤(C)	2015年4月	2018年3月	代表
4	山口 洋典	インター・コミュニティ・デザインとしての災害復興支援に関する実践的研究	科研費 若手(B)	2014年4月	2018年3月	代表
5	サトウタツヤ	母体胎児集中治療室入院妊婦のQOL向上と母親役割獲得に向けた看護ケアモデルの構築	科研費 基盤(C)	2015年4月	2017年	分担
6	サトウタツヤ	裁判員裁判の評議デザイン-評議におけるストーリーの構築過程と法実践手法の解明	科研費 基盤(B) (特設) (基金)	2017年7月	2019年	分担
7	松田 亮三	変動する社会における社会保障公私ミックスの変容-量質混合方法論による接近 【基金】	科研費 基盤(B)	2014年4月	2018年3月	代表
8	松田 亮三	変動する社会における社会保障公私ミックスの変容-量質混合方法論による接近 【補助金】	科研費 基盤(B)	2014年4月	2018年3月	代表

8. 競争的資金等(科研費を除く)						
No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	早川岳人	社会的要因を含む生活習慣病リスク要因の解明を目指した国民代表集団の大規模コホート研究：NIPPON DATA 80/90/2010	厚生労働科学研究費補助金 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	2014年4月	2018年3月	分担
2	サトウタツヤ	グローバリゼーション時代における新しい心理学史の叙述	挑戦的萌芽研究	2015年4月	2018年3月	代表
3	サトウタツヤ	医師のジェンダーの関与と、診療対話の視線と脳活動にみる、新しい医療交渉学の開発	挑戦的萌芽研究	2016年10月	2017年	分担
4	サトウタツヤ	大学生のキャリア発達プロセス可視化による自己形成の基礎研究と国際間比較	挑戦的萌芽研究	2016年4月	2018年	分担

9. 知的財産権

No.	氏名	名称	出願人 区分	発明人 区分	出願番号	公開番号	登録（特許）番号	国
該当無し								